

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1080 2010年3月号

「国有林モニター会議」を開催



〈企画調整室〉

二月二日、四国森林管理局において、「平成二一年度国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニターは、国有林野事業の運営等について幅広い国民の意見、要望等を聴取し、これらを開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営に役立てるため、四国在住の二六名の方に依頼しています。

会議では、出席された一五名の国有林モニターの皆様から、国有林モニターになった感想や国有林に期待すること等について、意見を頂きました。この会議で頂きました国有林モニターの皆様の意見や感想等については、「国民の森林」としての管理経営に活かして参ります。

(主な意見等は次のとおり。)

○最近の新築住宅は日本の木を使っていないと聞いている。森林林業再生プランが目指す木材利用自給率五〇%の達成に向け、木材利用についてPRしていくべき。

○近所に、木材を使った新しい校舎ができた。生徒に聞いてみると新しい校舎での勉強を楽しみにしているといっている。公共建築物や紙への利用を進めてほしい。

○勉強会や学習体験を通じて、森林浴の効果について広めていけば、もっと森林に親しみを持ってくれると思う。

○森林が大切である事を学校の教育として授業でもっと伝えるべき。

○間伐方法に点状間伐、列状間伐と二つの種類があることに感心した。

○木に触れる機会が少なくなっていると実感した。子ども達が使うものや周りに木がないことが残念に思う。



地区懇談会の様子（香川会場）

二月二三日、二四日に、愛媛県東温市と香川県高松市において国有林野の森林計画に関する地区懇談会を開催しました。

今回の地区懇談会は、平成二二年度策定、二二年度から実施予定の「地域管理経営計画」と「国有林野施業実施計画」の策定作業に先立ち、広く国民から意見を聞くために催し

たもので、策定の前年にこのような場を設けるのは、今回が初めてとなります。

会議は、計画部長と署長（所長）の挨拶の後、担当者から計画制度の概要、国有林の現状と現行計画を説明し、意見交換に移りました。

両計画区とも、都市部を抱えているため、都市近郊林として森林ふれあい関連の要望が多く出される一方で、木材生産への期待や、県産材利用拡大へのこ入れの希望、民間連携に関する具体的な要望など、様々な立場の方々から貴重な意見や要望を聞くことができ、大変有意義な懇談会となりました。

二二年度四月から本格的に計画策定作業に取りかかりますが、今回いただいた意見・要望を踏まえ、地域の実情に即したより良い計画となるよう、努めていきたいと思えます。

森林計画に関する地区懇談会を開催

（香川計画区・今治松山計画区）

計画課



表彰を受ける湯浅建設(株)



林野庁長官表彰の治山工事

平成二〇年度完成工事を対象に審査する「平成二二年度治山・林道工事コンクール」が行われ、次のとおり入賞工事が決定しました。

◎林野庁長官表彰
 「治山工事部門」



表彰を受ける一若建設(株)



林野庁長官表彰の林道工事

雁巻山 (2032)
 上水源流域広域保全工事
 施工：湯浅建設(株)
 「林道工事部門」
 保戸峰林道新設工事
 施工：一若建設(株)

治山・林道工事コンクール入賞工事決まる

《森林整備課・治山課》

計画課

- ◎四国森林管理局長表彰
- 「治山工事部門」
- ・穴吹川地区見の越
 - (上) 復旧治山工事
 - 施工：多田工業(株)
- ・ヒカリ石(91)
- 復旧治山工事

施工：片田丸吉建設工業(株)

 - ・春ヶ谷山(1043)
 - 復旧治山工事
 - 施工：(有) 金本組
 - ・和田山(2099) 奥地
 - 保安林保全緊急対策工事
 - 施工：大旺共栄(株)
 - ・別府山(52) 復旧治山工事
 - 施工：(有) 西野建設
 - ・祖谷川地区樫尾
 - (下) 地すべり防止工事
 - 施工：(有) 上西組

「林道工事部門」

 - ・椿山林道82線新設工事
 - 施工：(株) 晃立
 - ・ウツオノ川山林道
 - 災害復旧工事
 - 施工：沢良木建設(株)

各地の

たより



出前教室で

「木に親しむ学習」

〈ふれあいセンター〉

再生可能な資源である木材の役割はますます大きくなっています。当センターでは、材料としての木材の素晴らしさに気付き、さらに森林や自然環境への興味・関心につなげようと出前の木工教室を実施しています。



木工クラフトの様子

一月二八日は四万十市立具同小学校五年生八四名、二月二〇日は宇和島市立鶴島小学校四年生の親子五〇名、二月二四日は四万十市立藤岡小学校一〜四年生三三名を対象に実施しました。

最初に、木材の持つ色々な特徴を説明したり、世界で一番重い木材として知られるリグナムバイタを使った「水に浮く？」実験などによって、木材への関心を持たせました。

その後、思い思いの材料を選んだ児童達は、職員の指導を受けながら製作に取りかかりました。見本にこだわる児童、自身のアイデアを多いに盛り込む児童と様々でしたが、完成した立体作品やストラップなどを手にして、嬉しげな表情を浮かべていました。

また、「木材の話聞くことができてよかった」「作品づくりはとても楽しかった」などの感想が聞かれました。

四万十川の源流点で

森林学習

〈ふれあいセンター〉

一月二九日、須崎市立吾桑小学校五年生一三名を対象に「森・川・海」のつながりについて森林教室を実施しました。

当日は、残雪の中、歩道沿いの樹木を観察しながら四万十川の源流点を目指しました。

源流点では四万十川にまつわる話題として、川の長さ、名前の由来等について説明しました。児童達は一筋の流れが幾つも集まり、大きな四万十川のスタート地点であることを、実際に現地の自然や水に触れ感じとったことだと思えます。

下山後は四万十源流センター「せいらの里」に移動して昼食を取った後、「森・川・海のつながり」を説明しました。

その後、児童からは「森林から魚に必要な栄養分が多く川や海に流れ出して、魚場を豊かにしている」といった、学習した内容や理解した事についての発表がありました。

児童たちは今回の学習を通じ

て、森林の「大切さ・恵み」が十分理解できたと考えます。



四万十川源流点での説明

シイタケ栽培に挑戦

〈ふれあいセンター〉

二月八日、四万十市立藤岡小学校全校児童五九名を対象に、「山の学習」としてシイタケ栽培の体験学習を指導しました。

最初に、「きのこ」は森の恵みとして人気の食材であること、胞子でふえること、傘の形や生え方にも色々あることなどを説明しました。

そして、作業方法や栽培の注意点を説明した後、上級生が原

木のクヌギにドリルで穴を空け、下級生がシイタケの種駒を打ち込む作業に入りました。始めてみると、原木に千鳥足状の穴を空けることは思いの外難しく、悪戦苦闘の様子でしたが、職員の手助けを受けたり友達同士で協力しながら作業を進め、準備した原木の駒打ちを完了することができました。

この日できあがった長さ三〇cmの原木は、それぞれが家に持ち帰ってシイタケが生えるまで観察し、一mの原木については、学校で観察するそうです。

シイタケが生えるまでには時間がかかりますが、「生えてくるのが楽しみ！」との感想も聞かれました。



クヌギの原木への駒打ちの様子

森林のおくりもの 下笠居小学校森林教室

〈香川森林管理事務所〉



森林教室の様子

一月一九日、高松市立下笠居小学校で五年生七五名を対象に森林教室を実施しました。この森林教室は、国語の授業で「森林のおくりもの(富山和子著)」を学習したことから、「もつと森林について学習したい」と当所に依頼があり、実施しました。当日はパワーポイントを用いた森林教室と、木工を行いました。

林の働きにはどのようなものがあるか」等々、森林に関する様々な話をしました。その中身としては、樹木の話だけでなく、森林の土壌や、森林の中に生きている生物の相互関係、木材や林産物の生産・利用等多岐にわたりました。比較的町中にある小学校ですが、山遊びの好きな子も多いようでした。

後半は木工を行いました。児童は、木片や木の枝、まつぼっくりやどんぐりで作られた見本を見ながら、思い思いに作品を作っていました。なかなかくっつかない木片や、ボンドの付けすぎに四苦八苦しながらも、カプトムシやトトロ? など、個性的な作品を次々に完成させていました。

最後に、児童から「森林のことがよくわかりました。これを機会にもつと森林について知りたいです。」とお礼の言葉がありました。この森林教室が森林や林業に興味を持つきっかけ、あるいはより森林に親しみを感じる機会になればとの思いから、担任の先生方に対して、今後必要があれば出向きますとお話をし、森林教室を終了しました。

森林保護員と 連携した歩道修繕

〈嶺北森林管理署〉

工石山自然休養林は、高知市等の近郊に位置していることから、祝日等には入林者が多いこともあり、平成一八年度から「天然生林管理水準確保緊急対策事業」による森林保護員(グリーンサポータースタッフ)による保全管理業務を続けています。

この活動により、歩道や案内板のきめ細かな整備が進むとともに、森林植生や季節毎の草花の説明も行われることから入林者からも大変好評を得ているところです。

こうした中で、最近になり「サイの河原」に至る木製橋(長さ約七・〇m)が下流側に傾きはじめたため、足元が滑らないようにバランスをとりながら通行する人や橋を渡らずに溪流の石伝いに渡る登山者もみられるようになってきているとの情報がありました。

この為、登山者の安全を確保するために、土居森林事務所職員と森林保護員により橋の修繕を実施することとしました。



木製橋の修繕

修繕にあたっては、できるだけ周辺の自然景観にあつたものとするため新たな資材は持ち込まず、既存の材料を有効活用することとしました。その結果、修繕後の橋は見違えるほど立派というわけではありませんが、自然林の中にやさしくとけ込むすばらしい橋を再生することができました。



卒業制作で時計づくり

〈高知中部森林管理署〉

一月一七日、香美市立大栃小学校六年生全員が卒業制作として、保護者らとともにホオノキの部材と機械パーツを組み合わせた置き時計を作りました。

まず、子どもたちに樹木や森林についてあらためて見つけめなおしてもらおうと、いつも見慣れている校庭の木、制作の材料としてつかったホオノキやミズメの特徴、木の名前の由来や、物部の森林にすむ動物のことなどについて写真を用いながら話をしました。



オリジナル木製時計

その後、いよいよ時計づくりに取りかかると、子どもたちは真剣な表情で木の文字盤に向かい、これに絵を描いたり、小枝で数字を形取ったりしていききました。予想以上に時間はかかりましたが、各々個性にあふれた作品を完成させることができました。

最後に保護者から「長年物部に住んでいます。樹木や動物のことでまだ知らないことがたくさんあり、勉強になりました。」とお礼のごあいさつをいただきました。

卒業を間近に控えた六年生たちに、小学校での最後の作品を通じて木の温かさと時間の大切さを感じてもらえれば、この数年間、彼らと森林や木のことをともに学んできた森林環境教育担当者として、このうえなく幸せなことだと思っています。

親子で木工クラフトづくり

〈高知中部森林管理署〉

一月三〇日、高知市立中野保育園で、園児やその保護者らとともに木工クラフトを作成しました。当日、園ではバザーが行われており、当署は

その一角で、あらかじめ加工しておいたキットを使って組み立てる木の動物づくりのコーナーを担当しました。今回は、干支にちなんで用意しておいたトラが男の子に大人気でした。また、女の子はウサギやクマのキットを選び、それぞれ楽しそうに作品を作っていました。細かいパーツは少々苦手だったのか、保護者の方々に手伝ってもらい、できあがった作品を大切そうに持ち帰っていました。

当署は、中野保育園で毎年木のおもちやづくりを行っています。今後も児童・園児らとこうした機会を持ち、子どもたちに森林や木材について興味を持ってもらうきっかけづくりをしていきたいと考えています。

その一角で、あらかじめ加工しておいたキットを使って組み立てる木の動物づくりのコーナーを担当しました。今回は、干支にちなんで用意しておいたトラが男の子に大人気でした。また、女の子はウサギやクマのキットを選び、それぞれ楽しそうに作品を作っていました。細かいパーツは少々苦手だったのか、保護者の方々に手伝ってもらい、できあがった作品を大切そうに持ち帰っていました。



親子木工クラフト

― 農林業体験インターンシップ (千本山) ―

〈安芸森林管理署〉

アクションプログラムの一つであるインターンシップを二月二日に千本山で実施しましたので、参加された高知県立四万十高等学校の生徒さんの体験感想文を紹介します。

千本山の保護林はとても大きくて感動しました。長い年月をかけて手入れがされておき、太陽の光が差し込んでいて、登っていくにつれて低木の木々がよく茂っているのを見ることができました。しかし、最近では温暖化の影響などからシカ

による食害が問題になっていると聞きました。千本山に登っていると、最初のほうは地面を広葉樹の落ち葉が覆っていたが、途中からはスギの落ち葉で地面が覆われていることに気がつきました。地面を踏んだ感触もふかふかしていました。



魚梁瀬スギの大きさの体験

スギはヒノキの枯葉のようにすぐにポロポロにならないため、しっかりと地面を覆うクッションの役割をすべく以前学習しました。千本山は川とのつながりに関しても、とても良い環境なのだと思いました。そのおかげで登山口の下は川はともきれいなのだと納得しました。地元の自然と比較しながら登ることができて、その違いやそれぞれの魅力を発見することができました。また、違う季節に登ってみたいと思います。

高知県立四万十高等学校

自然環境コース二年

大久保 優

西川 香穂

一月二四日、高知市立介良小学校において、森林教室を実施しました、そのお礼の手紙が来ましたので紹介します。

〈指導普及課〉

(森林) コーナー (橋口) さん
今日は木のこしも、木を切った、
いろいろなことをおし知いただき
ありがとうございます。ぜひは木の
大きさをいりました。それで木を
切るのがとてもあがしかたでも
でもなにかがきてよかたでもそれが
ら木のまありをけするのがあが
かしかたでも今日は本当にお
がとうございました。

「あしずり駅伝」

参加について

〈四万十森林管理署〉

二月一四日、土佐清水市で行なわれた「足摺駅伝大会」に参加しました。この大会は、今年で四二回目という歴史ある大会であり、県内外から大勢の参加がある大会です。

その大会に四万十署長率いる「四万十フォレストスターズ」が参加しました。

第一走者は上り坂を上り坂と思わせない、爽やかな笑顔で走り抜けた森下禰原森林官、第二走者は街道の応援団に笑顔を振りまいての走りだった窪川森林事務所山下君、第三走者は四・五kmでも余裕の走りを見せていた福山三原森林官、第四走者は抜かれはしましたが、諦めず最後まで走りきった楠山森林事務所成瀬君、第五走者は下り坂で膝に負担のかかる区間でしたが、粘り強いベテランの走りを見せてくれた、川登森林事務所太田さん、最終走者は満を持しての登場、堀尾署長でした。

署長は、最後の直線で三人を抜き去り、応援に行けなかった若手が作った応援メッセージ

ジを繋げたゴールテープへゴールインしました。結果は、四四組中二七位です。まずの成績も残せました。この日は肌寒い日でしたが、沿道には多くの方々が応援に駆けつけており、森林管理署の名前を大いにPRすることが出来ました。来年は二チームでの参加を誓いあい解散しました。



来年は二チーム出場だ！